

病院ボランティアの心得

【活動の基本的なあり方】

病院ボランティアの活動は、何よりも「患者様のため」と言われるものですが、同時に「ボランティア活動者自身のため」となり、かつ「病院のため」にもなるものでなければなりません。

病院には病気やけがをした患者様また、患者様を心配して、お見舞いに来院する方も大勢います。誰もが多少の差はあれ、心身ともに苦痛や不安を持っています。そのような患者様の苦痛を少しでも癒してあげたい・・・という気持ちが病院ボランティアの原点ではないかと思えます。病院ボランティアは、あくまでも「医療行為にわたらない病院業務の補助者である」ということ、「その活動が患者様の安静と治療の妨げになってはならない」ということを十分理解していただきたいと思えます。

【施設の特特殊性を理解する】

病院といっても、その規模、構造設備などは病院によってそれぞれ異なります。しかし、どの病院においても各診療科、薬剤科、放射線科、検査科、栄養給食科などの部門があり、たくさんの職員、委託関係者がそれぞれの専門分野に分かれて仕事をしています。病院ボランティアを志す皆様には、病院という施設の特特殊性をよく理解されて、病院内部についても一応の予備知識を持っていただくことが必要ではないかと思えます。

【ボランティア活動の役割と責任を自覚する】

ボランティア活動において、よく問題になることは「自分は善意でやっているのだから」という意識が過剰になって、自分の価値観を押し付けてしまうことです。アドバイスは危険だということも知っておくことが必要です。

また「何も報酬をもらっている訳ではないから」ということで自分の都合で「勝手な行動をとる」方が見受けられることです。先にも述べたように病院には不安な思いを持つ患者様と、その家族の方々が行きかっています。ボランティア活動中は気持ちを集中し、しっかり状況を見極めないと、善意で取った行為が逆に反感をかわれトラブルになることもあります。

病院ボランティアは病院の中で一つの役割を持つこととなります。いったん引き受けた以上多少の困難があってもやりとおす覚悟を持ち、その時々状況を見極めて果たすべき責任を自覚して活動することが必要となります。

【基本的に守るべきこと】

病院ボランティア活動にあたっては、次の事項を必ず守りましょう。

1. 活動のあり方として

- 病院ボランティアとしての役割と自分の立場をよく自覚しましょう。
- 引き受けた活動に責任を持ち、信頼関係を保ちましょう。
 - ・ 活動に参加できる日時を決めて、その日の約束は守りましょう。
 - ・ 受け持った活動内容が途中で自分には不向きである、重荷であると思われるときは、責任者・担当者に相談しましょう。
 - ・ 活動は、できるだけ長く継続して行ないましょう。
- ボランティア活動上での規律と秩序を守りましょう。
 - ・ 受け持った活動場所で責任者から受けた指示や注意事項を守りましょう。
 - ・ 自分勝手な判断で行動を取らないで、必ず責任者に相談し、指示を受けましょう。
 - ・ 「何々をしましょうか」と一声かけて断られたときは、過剰なお世話は慎みましょう。（善意として取った行為が、逆に反感をかわれることもたまにあります。）
 - ・ 病院内で見たり聞いたりしたことは、軽々しく外部の人に話してはいけません。（患者様はもとより、ご身内の方も病状やけがに対して神経が過敏になっていることがありますので、病状などに触れることは慎みましょう。）
 - ・ 病院内では政治活動や宗教活動は禁止されています。
 - ・ 病院の規則やボランティア同志の取り決めは守りましょう。
- 自分の健康管理は自分でしましょう。
 - ・ 病院で定められた時期に必ず健康診断を受けましょう。（活動する上で義務付けとなっています。）
 - ・ 身体の具合が悪いときは、絶対に無理はしないでください。
 - ・ 活動中にけがをしたり、気分が悪くなったときは、速やかに活動場所の責任者か担当者に申し出てください。
 - ・ 活動の前後には、手洗い、うがいを励行しましょう。
- 病院ボランティアにふさわしい服装と態度で活動しましょう。
 - ・ 指定されたエプロンと名札を必ず着用しましょう。
 - ・ 服装は華美なものは避け、活動しやすいものにしましょう。
 - ・ 靴はかかとの低い、音の響かないものを履きましょう。
 - ・ 化粧、装飾品は控えめにしましょう。また香水やオーデコロンなど臭いのきついものは控えてください。
 - ・ 活動中は、大声で話したり、笑ったりしないように気をつけましょう。
 - ・ 活動中、ガムを噛んだり、お菓子を食べたりは慎みましょう。また、敷地内

は禁煙です。

- 公私混同をしない。
 - ・ 活動中に私事にわたる会話は慎みましょう。
 - ・ 特別な用事がない限り、家族や友人・知人を病院に連れてくることは慎みましょう。
 - ・ 活動中に友人のボランティア活動を訪ねたり、知り合いの患者様を見舞ったりすることは慎みましょう。
- 他の会員と協調し、良い人間関係を作るよう心がけましょう。
 - ・ 病院の関係職員や他のボランティア会員とは、できるだけ仲良くし、楽しく活動ができるように努めましょう。

2. 患者様に接するときの心得

直接、患者様と接するときのボランティア活動とは、特に細かい心遣いが要求されます。一般的な事項をあげてみますと

- ・ すべての患者様に対しては、公平かつ平等に接して特別に親しい患者様を作らないことです。
- ・ 患者様の名前や病状などプライバシーに関することは他の人に話してはいけません。
- ・ 患者様の容態等について詮索することは慎みましょう。
- ・ 患者様から病気のことや病院内部のことなどについて質問を受けたら、担当の看護師に伝えてもらいましょう。
- ・ 患者様またはその家族の方にお見舞をあげたり、患者様から贈り物などをもたらすことは慎みましょう。

以上、病院ボランティアの心得をあげましたが、ご自身が患者様の立場であったならばボランティア活動者にどのような心遣いをしてほしいか、おのずと見えてくると思います。